＜様式３＞

学校園教育推進サポート事業　報告書

学　番	1501	学校名	新津第一小学校	校長名	間嶋　哲	作成者名	長谷川　靖
学校教育推進サポート担当者名		坂内　麻紀				電　話	0250－22－0069

１　実践のテーマ

地域総ぐるみの『幼保こ小連携』により、子どもの育ちと学びをつなぐ教育課程の編成
～「10 の姿」を発展させた認知能力と非認知能力を、バランスよく育成するために～

２　テーマ設定の理由

新津第一小学校では一昨年度より、読解力、特にリーディングスキルの育成を目指した教育研究を積み重ねてきた。また同じ敷地内にある新津第一幼稚園では、幼稚園教育要領に示された『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(以下「10 の姿」と表記)』の実現と、近隣７園との交流・連携を図ってきた。その概要は、どちらも日本教育公務員弘済会新潟支部の『特色ある教育実践・受賞論文集』に、以下のテーマで収録されている。

○　論文集第 21 号　令和４年度
『よりよく考える子どもの育成～基礎的読解力（リーディングスキル）の育成を通して』
○　論文集第 22 号　令和５年度
『園児の資質・能力を育む、幼保こ小・地域連携の在り方～「10 の姿」の見える化と、
非認知能力の数値化を通して～』

前者は、どちらかといえば認知能力、後者は非認知能力に焦点を当てた研究となっている。「これらを融合させることはできないか」という問題意識を強くもつようになった。　周知のとおり、幼児教育施設の年長組から小学校一年生への、いわゆる「架け橋期」の充実は、世の中から強く求められていることである。現実的に、様々な背景や特色をもつ幼児教育施設から小学校に入学してくる子ども（当校では今年度 19 の園）は、多種多様な子どもが存在し、入学後ほどなくして困難さを表出し、不登校、不適応の状況になることが多く見られる。

幼稚園側から見れば、資質・能力の具体的姿である「10 の姿」がどのように小学校に繋がっているのかが見えにくい傾向がある。一方、小学校側から見れば、新一年生を迎えた後、緩やかに接続していくスタートカリキュラムが明確になっていない傾向がある。

小学校で継続して研究している基礎的読解力についても、中・高学年でしか身に付けられないカテゴリーもある半面、低学年の時期だからこそ身に付けさせたいカテゴリーも多い。また、「10 の姿」のうち、たとえば「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」を、どのように小学校教育とつなげていけばよいのか、まだ明らかにはなっていない。

当校園の教育ビジョンには、『知性と笑顔あふれる』という文言を大きく掲げている。「知性」という認知能力と、非認知能力を代表するキーワードである「笑顔」を具現していきたい。

３　実践内容

（１）新潟市が進める共通のスタートカリキュラムの概要から「園の学びを生かし、安心感と自信をもって活動する子どもを育てる４つの○○タイム」として、「ゆったりタイム」「なかよしタイム」「ぐんぐんタイム」「わくわくタイム」の効果的な実践の検討。
（２）園と連携した架け橋期にふさわしいカリキュラムの作成と、実践を通した評価・改善
（３）「10 の姿」から発展させた、小学校における認知能力と非認知能力を育成する教育課程
（４）小学校低学年、特に１年生における学習規律の定着と、基礎的読解力の育成

４　実践計画

実施時期	実施内容（研修会、先進校視察、授業公開　等）
前年度中	校務分掌、園務分掌の枠組みの修正と、担当者が担うべき役割の確認
4月1日～5日	新年度からの体制作り、担当者の仕事内容の精査、年間計画の作成
4月9日～26 日	新１年生でのスタートカリキュラムの実施（主として生活面、仲間作り）
5月2日	保護者による学習参観。保護者懇談会において、本取組の周知
5月7日～23 日	新１年生でのスタートカリキュラムの実施（主として学習面、学習規律）
5月30 日	第１回幼保こ小連絡会（関係者による学習参観を含む）
６月	学校支援課指導主事の要請訪問
夏季休業中	上越教育大学　高橋　知己先生を招聘しての研修会開催 架け橋期カリキュラムの見直し
９月 13 日	第２回幼保こ小連絡会（関係者、指導主事による学習参観を含む）
10 月	秋葉区校長会での視察受け入れ
11 月 29 日	幼保こ小連携研究会の公開（新潟市内の小学校、幼児教育施設に向けて） YouTube 限定配信
２月下旬	令和７年度入学児童と保護者を招いての交流会　一年間のまとめ作成
３月７日	各校園の１年生担任、年長学級担任を招いての実践報告説明会

５　成果

（１）実践の具体
①４つの○○タイムについて
新潟市が進める共通のスタートカリキュラムの概要では、「園の学びを生かし、安心感と自信をもって活動する子どもを育てる４つの○○タイム」として、「ゆったりタイム」「なかよしタイム」「ぐんぐ

んタイム」「わくわくタイム」がある。

「ゆったりタイム」については、「朝の支度は、基本、自分で行う。→黒板の表示を見ながら行う。」「６年生には，玄関から教室まで連れてきてもらう。６年生は１年生に頼まれたら手伝う。」「ボランティアは，主に１年生の見守りを行う。」という３つの方針で行った。昨年度は，支度からその後の遊びも６年生と１対１になり　がちであった。それゆえ、入学児童にとっては安心できるところもあるが，なかなか１年生同士のつながりができにくかった。ボランティアの方にも１年生から「手伝って下さい」と言われたら，手伝ってもらい，できた時は大いに誉めていただくスタンスで関わってもらった。これらの３つの方針により、児童が自信をもって行動できるようになってきた。

また、「ゆったりタイム」では、朝の支度が終わったら好きな遊びをしてもよいことにした。園の先生方から、「教室の自席の机だけでは関わりが生まれにくい」「園と同じような環境を作ってあげるとよい」とアドバイスをいただき、教室の後方に、各クラスにちゃぶ台１台と床に座れるためのシート３枚を設置した。そして、ジェンガ、ブロック、ドミノ、ぬりえ、折り紙、お手玉、パズル、あやとりなどの多種多様な遊びができるような環境を整えた。ちゃぶ台は、複数の児童がそれぞれ異なる遊びでも一緒に楽しめる場となり、別の園から入学した児童同士でも自然に関われるようになった。

「なかよしタイム」については、友達作りの第一歩として、「友達の名前を覚える」ための活動を行った。「自然にグループが作れる「猛獣狩りに行こうよ」というゲームでは，グループになったら，一人ずつ自己紹介をした。じゃんけん列車では，最後に勝った児童にインタビューして，みんなが名前を覚えるようにした。「この絵を描いたのは誰でしょうゲーム」では、図工で描いた「好きなものなあに」の紹介とともに，自分の名前や友達の名前をたくさん言う場を設定した。これらの取組により、自然と互いの名前を覚え、友達作りにつながっていった。

ぐんぐんタイム、わくわくタイムについては、授業の中で，友達づくりの活動を組み入れた。学校探検は，クラスの友達とだけでなく，２年生ともグループになって行った。休み時間でも友達と探検して，場所だけでなく人とも関わりをもつようにした。

②園と連携した架け橋期カリキュラムの取組の自校化について

各園の職員が，入学当初毎日来校し，児童の様子を観察した。園の先生方からは、「ちゃぶ台やシートがあってよかった。」「椅子がなくて，園での様子に似ていた。」「数人が自然と集まりやすい環境ができていた。」「朝の準備を全体で指導してできるようになったので，次の日から自分で準備ができた。」「６年生の数が少なくて，１年生同士の関わりが増えていた。」等の意見があった。その後，情報交換会を行い，園職員と１年担任で打合せを行い，児童目線から出される意見を基に，スタートカリキュラムの取組の改善を進めた。また、期待する児童の姿として「何事にも諦めず最後まで取り組む子の育成」を共通の目標に据え、園のアプローチプログラムの中にも，その姿を意識して取り組んでいただいた。そして、２か月に１回程度行う情報交換の場で，取組と児童の姿について振り返ってきた。

当校では、園との連携をもとに、「生活科と各教科等の単元を関連付けた単元配列表（４月）」や「４つの〇〇タイムを意図的・計画的に位置付けた週案を作成していった。

また、「年長時での小学生体験と１年生との交流」として、地域の園の年長児を招待して，小学校の授業体験をしてもらった。音楽の授業では，リズムや音階に合わせて体を動かすリトミックをした。図工では，１年生の教科書に載っている「すきまちゃん」を１年生と一緒に作った。体育では，体つくり運動として，動物歩きをして，体を支える運動遊びをした。各園を招いての交流会なども行った。

（２）成果と課題

①各種アンケートから

児童アンケートでは、「学校では楽しく過ごすことができる」で、肯定的評価が９６％だった。「友達ができて楽しい」と言う児童が多かった。保護者のアンケートでは、「スタートカリキュラムが友達作りに有効だったと思いますか」で、肯定的評価が９７％だった。自由記述には「友達の名前を覚えることが早かった。」「保育園の友達が全くいない状況だったので，新しいお友達をつくるいいきっかけになった。」「いきなり机に座るより床に座ってお友達と向き合う方がリラックスできる。」「好きなことや共通点から友達を作りやすかったと思う。」等の意見が多かった。また、「スタートカリキュラムが小学校の生活に慣れることに有効だったと思いますか。」では、肯定的評価が１００％だった。他の自由記述としては、「ゆったり・なかよしタイムなど楽しい活動があることで安心して登校することができた。」「朝の時間の過ごし方が幼稚園と同じような感じなのですぐに慣れることができたと思う。」「学校という初めての環境で不安が多い中，友達と触れ合うことを通して，学校が楽しい，心配がないところだと思えて，安心して通うことができた。」等の意見があった。

②成果

〇園から一人で入学してくる児童１２人に聞いたところ，友達作りができて，学校に楽しく通うことができている。

〇前年度に比べるとゆったりタイムに６年生やボランティアが関わらないようになり，１年生同士が関わり，横のつながりが強くなった。

〇保護者アンケートで，友達づくりへの不安を挙げる人がいなくなった。

〇１年生では、不登校及び不登校傾向の児童が０人であった。